

日本におけるショック・ドクトリンに 関する研究

氏名 安藤幹太

ナオミ・クラインが提唱する「ショックドクトリン」は、災害や危機を契機に急進的な改革が進められる現象を指す。本稿では、日本における阪神淡路大震災、東日本大震災、新型コロナウイルスを例に、ショックドクトリンがどのように影響を与えたかを考察した。震災後には社会保障制度や公的支援の限界を受け、都市開発や公共サービスの民営化など、民間協力を推進する政策が加速。コロナ禍ではデジタル化や効率化の政策が進んだが、その恩恵が全市民に均等でないことが明らかとなった。ショックドクトリンの問題点は、改革が社会的不平等や民主的手続きの軽視を招き、社会的対立や格差拡大を引き起こす点にある。災害や危機においても市民の声を反映し、持続可能で公平な社会を築くため、民主的なプロセスを維持することが重要である。